

# しょうがい et cetera

## 障害者雇用をやわらかく考える

本連載では「障害者雇用」について、色んな視点でみなさんと一緒に考えていきたいと思います。難しい話は専門書に譲るとして、クライアント企業さんからの「障害者雇用についてのお問い合わせ」に、少しでも役立つ情報をお届けしたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### 株式会社レオウィズ 代表取締役 汐中 義樹 氏

中小企業診断士、公認心理師、修士(教育学)

小学校教諭を経て、特別支援学校に着任。障害のある児童生徒への指導、若手教員の育成・学校コンサルテーションに従事。「障害者雇用」という課題を知る中で、教員の枠を超えて課題解決に貢献したい想いに至り、株式会社レオウィズを設立。現在は企業向けの障害者雇用推進のコンサルティング、指導員・相談員の方へのコンサルテーションを行う。著書に「障害のある方と共に働く」(日本橋出版、2023年)



## 第2回 行動の背景を考える

### ○人の行動とは

連載2回目のテーマは、障害のある方の「行動」です。

障害のある方の「職場での『行動』」に関するご相談をいただくことがあります。「彼のそういった『行動』は何が要因なのでしょう?」「なぜあの場でそういった『行動』をとるのか、教えてもらいたい。」といった感じです。今回は「行動」について、その背景を含めて一緒に考えていきましょう。

なお、ここで申し上げている「行動」とは、「言動」や「振る舞い」を指すこととします。

私たちは「行動」という目や耳で把握できる相手の姿から、その人の気持ちや意図を理解しようとしています。そして、たいていの人とは同じような場面で同じような「行動」を選択するので、意図を理解しやすいです。しかし、他人のイレギュラーな「行動」に対しては、共感できず、理解に困ることがあります。例えば、図書館で大声で電話をする人の「行動」は、本人以外の周りの人からは理解し難いものです。私たちは様々な経験を通して、場にふさわしい振る舞い方など、あるべき「行動」を学習しています。もう少し言うと、いくつかの「行動」の選択肢の中から、状況や環境に合わせた「行動」を考え、選択しています。つまり「行動」には、その人の経験や思考が関与することになります。障害のある方の「行動」を理解するには、その方の経験や思考といった背景を紐解く必要があるわけです。

### ○行動の背景を考える

「行動」の背景にある「経験」についてまず考えてみましょう。

障害のある方は、社会の構造やルールなどが障壁となり、様々な制約の中で生きてこられた方がほとんどです。その中には「失敗経験」もたくさんあったでしょうし、その度に悔しく惨めな思いもしたかもしれません。私たちも少なからず失敗を経験していますし、自分を責めたり、自信をなくしたりすることもあります。しかし、それがたくさん積み重なると、自分の無力さを感じ、自己効力感も低下していきます。

例えば職場で仕事を依頼した際に、返事をしない、「でき

ません」と初めから諦める、不満そうな顔をするなどの「行動」をとる人がいます。その背景には、これまでの「失敗経験」やその時に味わった悔しい思いなどで頭の中がいっぱいになり、受け入れられないという心理状態があるのかもしれない。

「思考」についてもみていきましょう。皆さんもイライラしたり気が散ったりといった、ネガティブな「思考」になることがあると思います。それには、何かしら原因がありますよね。障害のある方の中には、職場に苦手な音がある、電気の光が気になるなどが原因で、不機嫌になったり気が散って仕事ができなかったりする方がいます。聴覚や視覚に過敏さがあることで、心の安定を削られなくなり、ネガティブな「思考」に陥っているのです。また、そもそも人の気持ちを考えることが苦手な方もいます。冒頭の例のように「図書館で電話をすると他の人に迷惑がかかってしまう」という「思考」に向かわないこともあるのです。

### ○背景を知り、適切に関わる

こんな話をすると「背景は分かった。でも、うちで働いてもらうからには甘やかすことはできない」という方がいます。私は折に触れて「配慮はしても遠慮はしないことが大切です」と申し上げています。障害のある方の「行動」を理解する目的は、甘やかすためではありません。適切な支援や配慮を考えることが目的であり、それは本人の自立性・主体性の向上、そして高い成果にもつながります。

例えば仕事を依頼する際、丸ごと投げるのではなく、「できる部分」だけをまず依頼してみます。できたら次、それができたらまた次と、スモールステップを踏めるように配慮することで、本人は成功を重ねて自信が高まりますし、仕事の成果も上がります。感覚過敏に対しては、イヤホンやサンングラスの着用を認めたり、デスクの場所を変えたりすることで、気持ちが安定し、集中して仕事に取り組むことができます。

今回は、障害のある方の「行動」について考えました。「行動」という目に見えるものだけにとらわれず、背景を考えることで、よりよい関係づくりや職場づくりにもつながります。参考となれば幸いです。ではまた次回! (つづく)